

安全データシート

作成日 2022年7月24日

1. 製品及び会社情報

販売名	デミスト3
主な用途	メガネ・ゴーグルのくもり止め
会社名	山本光学 株式会社
住所	大阪府東大阪市長堂3-25-8
電話番号	06-6783-1101

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分2
健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷性または眼刺激性	区分2
	生殖毒性	区分1A
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(中枢神経系、全身毒性)
		区分3(気道刺激性、麻酔性)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(肝臓、血液系)
		区分2(中枢神経系、脾臓)

GHSラベル要素 シンボル



注意喚起語 危険有害性情報

危険
引火性の高い液体および蒸気
強い眼刺激
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
皮膚刺激
中枢神経系、全身毒性の障害
呼吸器への刺激のおそれ
眠気またはめまいのおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による血液系および臓器(肝臓)の障害
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(中枢神経系、脾臓)の障害のおそれ

注意書き

【予防策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること-禁煙。
防爆型の電気製品、換気装置、照明機器を使用すること。
静電気放電及び火花による引火を防止すること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡を着用すること。
容器を密閉しておくこと。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
指定された保護具を使用すること。
取扱い後は良く手を洗うこと。
屋外または換気のよい区域でのみ使用すること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

【対応】

火災の場合には適切な消火方法をとること。
皮膚(又は髪)にかかった場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと。多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合:水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。刺激が強まったり、持続する場合は、医師の診断を受けること。
飲み込んだ場合は、口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること。
無理に吐かせないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。
ばく露又はその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断を受けること。

【保管】 容器を密栓して、直射日光の当たらない涼しい所に保管すること。

【廃棄】 内容物、容器を破棄するときは、国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

GHS分類されない特定の危険有害性 細かなスプレーを吸引すると、呼吸器系の重大な障害を起こすことがある。
フッ素樹脂の熱分解により発生するヒュームを吸入すると、発熱、咳のような風邪に似た症状がでる(ヒューム熱)ことが知られている。

3. 組成、成分情報

単一製品／混合物の区別：混合物
含有成分及び含有量

内容 液	成分名・化学名	配合量 (wt%)	CAS No.	化審法官報公 示整理番号	安衛法 対象物質	PRTR法	毒劇物
	パーフルオロアルキル化合物	5.00	非開示	非開示	非開示	非開示	非開示
	イソプロピルアルコール		67-63-0	2-207	該当	非該当	非該当
	アンモニア含有水溶液		1336-21-6	(1)-314	非該当(※)	非該当	非該当
	エタノール	14.25	64-17-5	(2)-202	該当	非該当	非該当
	水	80.75	7732-18-5	非該当	非該当	非該当	非該当

※対象成分であるが、少量の為、非該当

4. 応急措置

吸入した場合 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、必要に応じて医師の診断を受けること。

目に入った場合 水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。刺激が強まったり、持続する場合は、医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合 口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合 多量の水と石鹸で洗うこと。

5. 火災時の措置

消火剤： 水、炭酸ガス、粉末、泡

消火方法： 可能な限り風上から行う。危険のない限り燃焼源の供給を止める。
消火の為に放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置を講じる。
当該製品は分子中にフッ素を含有している為燃焼ガスには一酸化炭素等の他フッ酸ガス等の有毒物質が含まれるので、消火作業の際には煙を吸入しないように注意。

消火を行う者の保護： 消火作業では適切な保護具を着用する(手袋・眼鏡・マスク等)。
有毒ガスを発生する危険性があるため、作業者は自給式呼吸器等の各種保護具等を完全に着用して作業する。

6. 漏出時の措置

- ① 付近の着火源となるものは速やかに取り除き、消火剤を用意する。
- ② 液は紙や布、おが屑などに吸着させて燃えるゴミとして廃棄する。大量の場合は土砂等の不燃物で囲って流出を防止し、スコップまたは吸引機などでドラム缶に回収する。
- ③ 屋内の場合、処理が終わるまで十分な換気を行う。作業の際には保護具を着用し飛沫等が皮膚に付着したり、ミストやガスを吸入しないようにする。多量の場合は安全に退避する。
- ④ 流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起こさないように注意する。漏出物を直接河川や下水に流してはいけない。

7. 取扱い及び保管上の注意

使用上の注意

- ① 本品は、弊社品（めがね・ゴーグル・防災面等）以外には使用しないでください。コンタクトレンズ、水中めがねには使用しないでください。
- ② 万が一、使用中に肌や眼に異常が生じた場合は、直ちに使用を中止し、水で十分洗い流した後、専門医にご相談ください。

保管及び取り扱い上の注意

- ① 直射日光を避けて、高温になるところには置かないでください。
- ② 幼児の手の届くところには置かないで下さい。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度と許容濃度

	エタノール	イソプロピルアルコール	アンモニア
管理濃度	－	200ppm	－
日本産業衛生学会	－	最大許容濃度 400ppm,980mg /m3	25ppm(17mg/m3)
ACGIH (TLV-STEL)	1,000ppm	200ppm	25ppm

設備対策 : 静電気放電に対する予防措置を講ずること。

保護具 : 保護手袋/保護衣/保護眼鏡を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

(内容物) 性状 : 淡黄色透明液体
比重(25℃) : 0.986
臭気 等 : 原料臭
p H : 8.38

10. 安定性及び反応性

引火点 : 38.5℃
発火点 : 知見なし
可燃性 : 知見なし
反応性 : 知見なし
その他危険性情報 : 水、エタノールに溶解

11. 有害性情報

イソプロピルアルコール

急性毒性 経口 ラット LD50=4384mg/kg
経皮 ウサギ LD50=12870mg/kg
吸入(蒸気) ラット LC50=68.5mg/L

エタノール

生態毒性 経口 ラット LD50=6200～17,800mg/kg
経皮 ウサギ LDLo=20,000mg/kg
吸入 ラット LC50=20,000ppm/10H
吸入(粉塵、ミスト) ラット LC50(4H)=118ppm/L
変異原性 小核 マウス(腹腔) 1,240mg/kg/48H
生殖毒性 吸入 ラット TCL0=20000ppm/7H 妊娠、1-22日 発育異常
経口 ラット TDL0=44g/kg 妊娠、7-17日 発育異常

12. 環境影響情報

イソプロピルアルコール

生態毒性 魚類(メダカ) LC50=100mg/L/96hr
甲殻類(オオミ EC50 >1000mg/L/48hr
ジンコ
甲殻類(オオミ NOEC >100mg/L/21days
ジンコ
藻類 EC50 >1000mg/L/72hr

エタノール

生態毒性 マスの幼魚 LC50 11.2g/L/24H
コイの一種 LC50 18-13.4g/L/96H
クリークチャブ LC50 7g/L/24H
グッピー LC50 11g/L/24H

分解性

ThOD 2.10mg/L
BOD5 ThODの44-80%
COD ThODの95-100%
バクテリア硝化能の抑制 4,100mg/Lでニトロソモナス種のアンモニア酸化の50%抑制

13. 廃棄上の注意:

廃棄においては関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
中身を排水口や下水に流したり、山林や河川、海などの場所への不法投棄は絶対にしないこと。

14. 輸送上の注意

国連分類	クラス3
国連番号	1993

15. 適用法令

消防法	第4類第2石油類(水溶性)
労働安全衛生法	エタノール、イソプロピルアルコール

16. その他の情報**注釈**

本書の内容は、法規改正、新しい知見や情報入手、試験等により改訂されることがあります。

記載内容は現時点で入手出来た資料や文献等の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、如何なる保証もなすものではありません。

全ての化学製品には、未知の危険性や有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。本書には通常の危険性や有害性について記載してありますが、記載内容以外の危険性や有害性が存在しないことは、保障出来ません。記載事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全策をご実施の上、取扱い願います。

引用文献

原料メーカー発行の安全データシート